

IV-294

アフォーダンス概念による空間評価分析に関する研究

－黒沢湿原の訪問者・地域住民意識調査を用いて－

徳島大学大学院 学生員 永井英樹

徳島大学工学部 正会員 山中英生

徳島大学工学部 正会員 山口行一

建設材料試験場 正会員 澤田俊明

1. はじめに

近年、環境、レクリエーション、観光、景観などの重要性が増加し、空間の望ましさを評価する方法が重要となっている。空間評価は、行動的アプローチ、心理的アプローチ、生理的アプローチなどの様々な方法が試みられているが、心理学者 J.J.ギブソンが提案したアフォーダンス概念は、行動と心理を総合的にあつかうアプローチとして着目されている。

本研究では、徳島県三好郡池田町にある黒沢湿原を取り上げ、アフォーダンス調査から黒沢湿原の空間評価の可能性を検討するため、2つの分析を行った。具体的には、まず、黒沢湿原に対するアフォーダンスのゾーン性と行動アーキタイプに着目して空間評価特性を分析した。次に、黒沢湿原の環境価値意識、すなわち支払い意志額、奉仕労働量、「貴重さ」に対する意識とアフォーダンス情報との関連を分析した。

2. アフォーダンス分析に関する考察

本研究では、J.J.ギブソンのアフォーダンス理論における「アフォーダンス」と「オブジェクト」の概念を以下のように解釈した。すなわちアフォーダンスは、「環境が動物に提供する行動や行為を誘発する情報」、オブジェクトを、「想起された空間構成要素」と定義し、また、オブジェクトのうち景観上で「良いもの」として想起されたものを「良オブジェクト」とし、「悪いもの」として想起されたものを「悪オブジェクト」とし、これらをアンケートによって調査した。

3. 調査概要及び回答者の属性

表1 調査概要

調査名	訪問者アンケート	池田町民アンケート	湿原周辺アンケート
対象者	黒沢湿原の訪問者	池田町民	湿原周辺住民
良いと思うもの	自由回答	選択回答	選択回答
じゃまだと思うもの	自由回答	選択回答	選択回答
したいと思うこと	自由回答	選択、及び自由回答	選択、及び自由回答
回答数	368	920	131
調査時期	1998.7～11	1998.11	1998.11

アフォーダンス情報を探索するために行ったアンケート調査の概要を表1に、それらのアンケートの回答者の属性を図1に示す。訪問者は、若年層が多いのに対し、池田町民、湿原周辺においては高年層の割合が高くなっている。

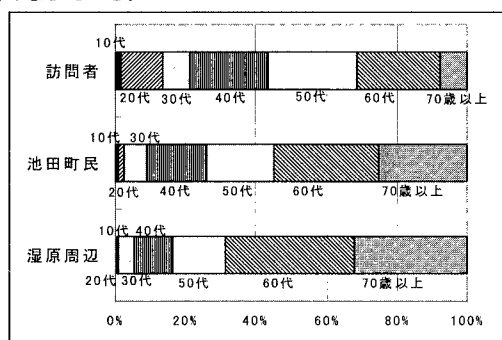


図1 回答者の属性(年齢)

5. ゾーン別想起量の比較分析

黒沢湿原を「駐車場」「広場」「園路」「湿原」「森林」のゾーンに分けて、想起された個々のオブジェクト、アフォーダンスをそれらが存在するゾーン別に集計した。

訪問者のアフォーダンスのゾーン別想起量の比較結果を図4に示す。県外の訪問者は、「園路」「湿原」での想起に集中しているのに対して、県内の訪問者は、他空間にも比較的同等に想起していることが分かる。

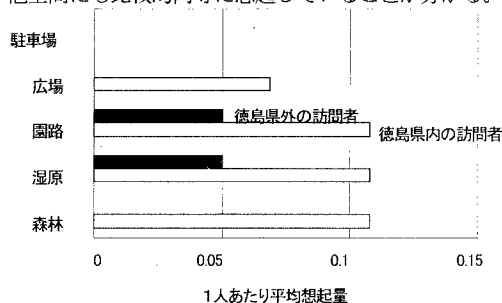


図4 アフォーダンスのゾーン別想起量

キーワード 景観工学

連絡先 〒770-0814 徳島県徳島市南常三島町 2-1 tel 088-656-7578 FAX 088-656-7579

6. 行動タイプ別想起量の比較分析

次に、認知行動の基本となる行動に着目するため、想起されたオブジェクト、アフォーダンスを「じっとしている」「聞く」「見る」「動く」「近寄る」「触る」「上を向く」「普通にたつ」「しゃがむ」の9つの行動タイプに該当するかを設定し、行動タイプ別想起量を集計した。

訪問者におけるアフォーダンスの行動タイプ別想起量の比較分析結果を図5に示す。図より、県外の回答者は「見る」「じっとしている」などの静的行動に関係するアフォーダンスを多く想起しているのに対し、池田町、徳島県内の回答者は、「動く」などの動的行動に関係するアフォーダンスを多く想起していることが分かる。

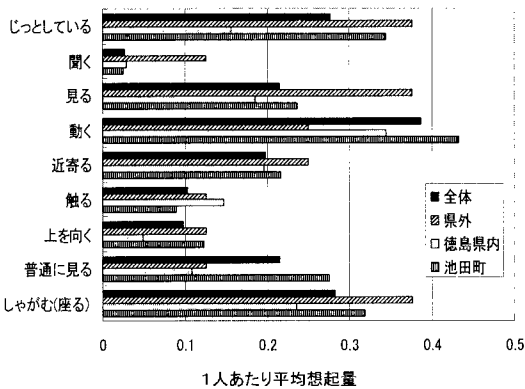


図5 アフォーダンスの行動タイプ別想起量(訪問者)

7. 支払い意志額、奉仕労働量の関連分析

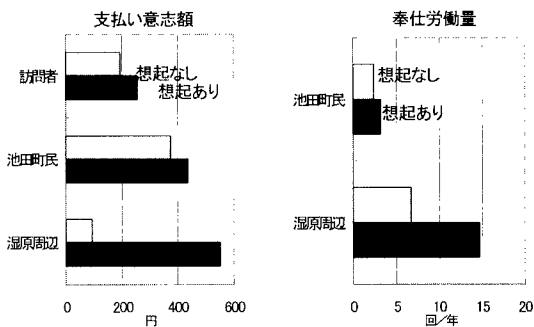


図6 アフォーダンスの行動タイプ別想起量(訪問者)

園路ゾーンに関係する良オブジェクトの有無と支払い意志額と奉仕労働量の関係を図6に示す。図より、オブジェクトの想起量がない回答者より、想起量がある回答者の方が、支払い意志額、奉仕労働量ともに高くなることからわかる。つまり、黒沢湿原の「園路」に注目している回答者は、「園路」に関係するオブジェクトを想起する回答者の方が、空間の価値が高くなることからわかる。

8. 「貴重さ」に対する意識との関連分析

「貴重さ」に対する意識との関連を図7に示す。良オブジェクト、悪オブジェクト、アフォーダンスに全てにおいて、「貴重である」と回答した人は、平均想起量が高いということが分かる。

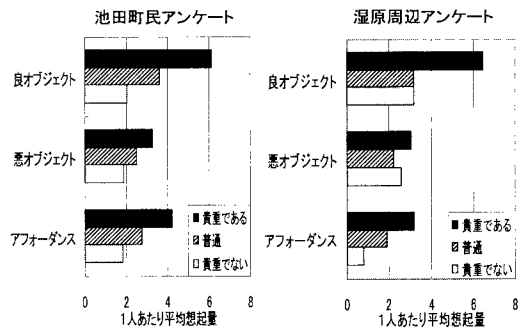


図7 「貴重さ」に対する意識とアフォーダンス特性値

9. 結論

訪問者は、「園路」「湿原」の空間を評価し、県外の訪問者は、「静的行動」、池田町、徳島県内の訪問者は、「動的行動」を誘発する空間として黒沢湿原を評価していることが明らかになった。一方、「園路」ゾーンに関係するオブジェクトを想起する回答者は、支払い意志額、奉仕労働量が高く、「貴重である」という意識が高い回答者は、アフォーダンス特性値、ゾーン、行動タイプ特性値の全てにおいて想起量が高いということが分かった。

今後は、これらの情報と現実の行動との関係を分析していきたい。

参考文献

- 1) J.J.Gibson 著、古崎敬ほか訳：生態学的視覚論、サイエンス社